

千葉市

精神障害者の地域移行推進に 関する取り組みについて

千葉市では・・・

- ・平成27年度より措置入院者の退院に向けた支援の調整を実施している。
- ・平成28年度、長期入院精神障害者地域移行総合的推進体制検証事業を実施。
- ・平成29年度からは「精神障害にも対応した地域包括ケアシステム構築推進事業」を実施中。

1 平成30年度の達成目標と現時点での進捗状況

平成30年度の達成目標	現時点での進捗状況
1. 地域移行支援プログラム等を活用し、入院患者に対する支援をさらに拡充し、地域移行につなげる	長期入院患者を抱える病院と、事業所、訪問看護ステーション、行政機関が連携しマッチングにより地域移行モデル実践チームを結成。構築推進事業のプログラムを活用した地域移行実践の取り組みを開始した。
2. 地域移行支援の取り組みを、市内全域で活性化できるようにする	具体的な活動組織として「千葉市地域移行推進隊(分科会)を結成。地域移行を「進める」「広める」「深める」の側面から、病院・事業所・行政等で協働しながら、様々な活動を開始した。
3. ピアサポーターの活用・養成を重点的に実施する	現状の特定の病院・事業所に限られた活動から、全市的に活動圏を拡大できるよう、交流会や公開セミナー等の実施に向け、検討・準備を開始した。

2 精神障害にも対応した地域包括ケアシステムの構築に向けた取組における強みと課題

課題	課題解決に向けた取組方針	課題・方針に対する視点別の認識(取組)	
①医療機関と相談支援事業所との連携実績に偏りがみられる	まず、代表的な連携モデルをひとつ構築し、それを他にも応用できるようにしていく。	行政側	各医療機関および相談支援事業所間の連携を、いかにスムーズにしていくか。
		医療側	地域移行の必要性と、医療機関にとっても有益だということの認識を深めていく。
		事業者側	医療側の状況も考慮し、「少しずつ前に進めていく」という認識をもつ。
		関係機関・住民等	連携の強化
②ピアサポーターの活用・養成	まず、代表的な活用モデルをひとつ確立し、他にも拡大・応用を図っていく。 サポーター養成についても、積極的に検討・実行していく。	行政側	他事例の収集、関係機関との連携・調整
		医療側	活用モデル、養成研修の検討ほか
		事業者側	活用モデル、養成研修の検討ほか
		関係機関・住民等	連携の強化

課題解決の達成度を測る指標	指標の設定理由	現状値	目標値(H30)
①地域移行支援プログラムの実施	広く医療機関が絡んだプログラムの実績がない	3件(2病院)	9件(各病院1件)
②ピアの方が関わる場の実施	活用モデルとして確立していない		
②サポーター養成研修の実施	未実施	未実施	1回

※指標設定が困難な場合は、代替指標や定性的な文言でも構いません。

3 病院（医療機関）との連携状況

1. 意見交換&情報交換の場

- (1) 病院・事業所・行政等にて構成される、「千葉市精神障害にも対応した地域包括ケアシステム構築推進連携会議」を開催（6月 次回11月）
- (2) 上記の連携会議に基づき、その内容を具現化するための活動組織として「千葉市地域移行推進隊（分科会）」を結成。病院・事業所・行政が連携をとりながら、活動を開始した（7月～）。



2. 具体的な活動

- (1) 長期入院患者を抱える5病院中4病院と、5カ所の相談支援事業所、3カ所の訪問看護ステーション、行政機関が連携し、地域移行モデル実践チームをマッチングにより4チーム結成。構築推進事業のプログラムを活用し、地域移行実践の取り組みを開始した（8月～）。
- (2) ピアサポートの活用・養成に関する取り組みの開始した（8月～）。

4 現時点での課題・悩み

【課題・悩み】

- (1) 今年度からピアの方が分科会活動に参加している。最終的にはピア雇用につなげるのが理想であるが、地域でのピア雇用の現状を把握し、雇用に向けどのように進めていけばよいのか。
- (2) 地域住民への働きかけ方で試行錯誤している。



【他自治体へ聞いてみたいこと】

- (1) 構築推進事業を利用して、実際に退院につなげた事例やその件数。
- (2) 長期入院患者へのアプローチを、どのような内容で、どのくらいの頻度でおこなっているのか。

